

東北をずっともっと元気に
一過性ではない東北復興支援



TOYOTA

トヨタの東北での歴史と、地域への想い

2011年3月に発生した東日本大震災以降、トヨタは震災直後の緊急支援をはじめ、自動車産業・ものづくりの振興に加え、多岐にわたる地域支援の活動を継続的に実施しています。



3社統合



1993

関東自動車工業
岩手工場*稼働開始

1997

トヨタ自動車東北*
設立

2011

セントラル自動車
宮城工場*稼働開始

東日本大震災

2011年3月11日（金）
午後2時46分発生

2012

トヨタ自動車東日本
（TMEJ）発足

「東北でクルマをつくり続け自動車産業の基盤を構築することが、我々として出来る一番の復興への貢献」という想いから、中部・九州に並ぶトヨタ国内第3の拠点として誕生しました。

2013

トヨタ東日本学園
設立

*現在のTMEJ岩手工場

*現在のTMEJ宮城大和工場

*現在のTMEJ宮城大衡工場

▶ 震災直後にトヨタが実施した主な緊急支援の内容

*2011年5月20日公表分

義援金		3億円の義援金拠出 - 役員と従業員による総額約5500万円の寄付
物資支援		- 食料品、生活用品、医薬品など11tトラック87台分の支援物資の提供 - 給水用タンクローリー7台の提供（給水活動の実施）
車両提供		約250台の車両の提供
寮・社宅提供		愛知県内の社宅160戸、寮320室の提供（集団避難用）
農業支援		- 従業員食堂での東北・関東地方の食材を用いた料理の提供 - 東北・関東地方の農産物や加工品の物産販売会「企業内マルシェ（物産展）」の開催
人的支援		トヨタグループ・関係会社15社の従業員ボランティアによる支援活動（瓦礫の撤去やゴミの片付け、側溝の泥出しなど）

▶ 東富士工場から受け継がれるもの

TMEJ発足後の2018年、さらなる競争力強化を目指して、それまで培われてきた高い技能・知恵と工夫を東北の工場へ集約するため、静岡県裾野市にあるTMEJ東富士工場の閉鎖が決定しました。

東北の工場へ移れなかった従業員もいますが、技能・知恵・工夫は東富士工場から東北へと受け継がれました。

そして、東富士工場の跡地にはWoven Cityが建設されました。歴史や想いは途絶えることなく、Woven Cityの未来へと繋がっています。



持続的な地域振興支援

TMEJが実施している地域振興支援の取り組みの一部をご紹介します。

▶ 相互研鑽

▶ 異業種相互研鑽活動

この活動は、「クルマづくり以外でも被災地、被災した方々のお役に立ちたい」という想いのもと2013年にスタートしました。

自動車以外の製造業をはじめ水産加工業、農業などの様々な業種の皆さまと、互いのものづくりを学び、トヨタの改善手法を用いて、現場で働く方が楽に、楽しく作業できるようにすること、そして自らの知恵と工夫で改善を継続していきけるような人づくりを目指した取り組みです。

活動に参画するTMEJのメンバーは、異業種相互研鑽グループへ部署異動し、2年間活動に専念します（年間2社担当）。東北6県に加え新潟県も対象にしており、これまでに166社（2026年9月時点）の皆さまと一緒に活動してきました。

TMEJから派遣されたメンバーも異業種の考えに触れ、視野が広がり大きく成長できることから、『相互研鑽活動』と呼んでいます。



参考： **トヨタ**

トヨタが「ねぎま」の製造現場で
嘘みたいな改善を？なぜ焼き鳥！



▶ 仕入先との相互研鑽

2012年のTMEJ発足時、東北の自動車産業の歴史はまだ浅く、私たちは『チーム東北』として競争力を高めていくため、各種勉強会やQCサークル活動を通じ、東北の仕入先さま同士の絆づくりを進めてきました。

2017年に始まった相互研鑽活動では、東北の仕入先さまが抱える困り事や競争力向上に向けた課題に対し、仕入先さまのものづくりにTMEJが学びを得ながら、共に“現地現物の改善”を進めています。

現在では、専門的な知見を有する仕入先さまにも参画いただき、約90拠点（2026年9月時点）にまで活動の輪が広がり、改善活動を共に進めています。



▶ トヨタ東日本学園

2013年、東北のものづくりの中核人材育成のため、TMEJの企業内訓練校として開校しました。

長期コースでは、学園生は1年間寮生活を送りながら、実習主体のカリキュラムにより設備保全などの技能習得を目指します。また、将来職場のリーダーとして活躍する人材を目指して規律訓練やスポーツ、ボランティア活動などにも取り組みます。工業高校卒業者に加え、東北6県および新潟県に拠点を置く企業の社員も受け入れ、地域で活躍するものづくり人材も育成しています。卒業生194名*は、生産現場、保全、革新技術などに従事し活躍しています。

長期コースの他、短期コース（2～4日間）、中期コース（20日間）を設定し、これまで928名*の地元企業の皆さまの技能向上にご活用いただいています。



*2025年度までの卒業生の累計

▶ CN（カーボンニュートラル）推進

▶ 東北自動車産業グリーンエネルギー普及協会（TAGA）

『TAGA』は2022年に、東北の再エネ電力供給を通じた東北の自動車産業の競争力向上と地域経済の発展を目指して、TMEJが中心となって設立した電力小売りの法人です。

活動開始以降、TAGAの再エネ電力供給量は順調に増えています。トヨタグループとTMEJ関連企業をはじめ、地場企業や東北に進出いただいた各社にも供給を拡大しており、地域の皆さまと共に東北の再エネ電力の地産地消を実現しています。

▶ 金ケ崎レジリエンスグリッド

地域の防災性向上を目的とし、自治体と地域電力関連会社と共に『金ケ崎レジリエンスグリッド』を運営しています。

通常時はTMEJ岩手工場内の太陽光発電設備で発電した電力を工場内で有効活用し、大規模な災害などの非常時には、蓄電池設備に蓄えた電力を近隣の防災拠点へ供給します。



「町いちばん」の想い

地域振興の取り組みに携わっているTMEJの従業員に、お話を聞きました。

異業種相互研鑽活動



■ 異業種相互研鑽活動に参加することとなった経緯や想いについて教えてください。

伊藤さん：元々、職場の工数低減など、現場改善の活動をやっていました。そんな中、当時の課長から、ずっと改善もやってきたし、良い機会なので異業種相互研鑽で勉強してこないか？というお話をいただき、自分の今までやってきたことを活かせるのではと考え、お受けしました。

■ 携わった案件の中で特に印象に残っていること、大変だったことは何でしょうか？

伊藤さん：1年目は電子部品関係の会社を担当しましたが、かなり苦労しました。自分がどう企業さんに貢

献できるのかが全く見えず、空回りしているような毎日でした。『東北の仲間づくり』と聞いていたものの、どうやるの？と。「早く成果を出さないと」と焦るばかりで、相手の本音を引き出すのがすごく難しかったです。

2年目はお菓子の会社でしたが、1年目の反省を踏まえ、仲間づくりを意識して臨みました。「企業さんの求める作業効率向上を実現しないと」と意気込んでいましたが、一緒に同行いただいた工藤さん（当時の異業種相互研鑽グループ長）からは、「5S*をするぞ！」と言われ、大事なことは思いつつ、正直少し戸惑いながらも先方の社長も含め1日かけて5Sに励みました。結果、終わった時に皆さんの表情がかなり和らいだのに気づき、一緒に何かを目指し、達成した時の心の縮まり方とはこういうことか、と気づきました。「成果を出さないと認められない」と思っていたけど、そういうことじゃなかった。そこから一気に活動が円滑になり、『仲間づくり』を実感しました。自分の中の転換期でしたね。



■ 活動の成果や、参加企業の反応について教えてください。

伊藤さん：「やってよかった」というお声をいただき

ました。2年目のお菓子の会社では、1つの機械について良品数を日当たり6,000から8,460まで改善でき、横展すると11,000まで達成できるストーリーを描けたので、成果としても満足いただけたのかなと思います。



■ 活動を通じて得られた学びはありますか？

伊藤さん：自分の考えが変わりました。元々現場での改善活動は、1人～2人で進めていたので、自分がやりたいことをやって成果をあげる、という独りよがりなところがありましたが、異業種で活動をさせてもらい、立場の違う人たちが集まり一つの目標に向かうことを経験しました。「仕事は一人でやっていない」、ということが一番の大きな学びです。立場が違えば意見も違い、一つの目標に結び付けるのは大変ですが、心の距離が縮まると、成し遂げたときの喜びは一味違う、ということを実感しました。

元々ものづくりが好きだったので、相手先のニーズに合わせて、身の回りの物を使ったりとか今までやったことのない改善ができたのは、楽しかったですし、自分の経験が活きつつ学べたところかなと思います。

*5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰

「町いちばん」の想い

地域振興の取り組みに携わっているTMEJの従業員に、お話を聞きました。

トヨタ東日本学園



■ TMEJに入社しようと思った理由を教えてください。

丹野さん：小さい頃からクルマが好きで、いずれはクルマに関わる仕事に就きたいと思っていましたが、2011年の東日本大震災の直後は、地元の石巻で実家の状況や被災の様子を目の当たりにしていたので、地元の復興に関する仕事に就かなければと感じていました。

そんな中、トヨタ工業学園の専門部というところから求人があることを知りました。1年間トヨタ自動車の企業内訓練校で勉強後、2012年に3社統合で新設されるTMEJに入る、という特別な求人枠でした。夢であったクルマづくりの仕事に就きながら、1年後には地元の東北に戻り、東北復興や地域貢献の仕事に携われるということに非常に感銘を受け、希望しました。

■ 指導員として、学園生に特に学んでほしいことや期待することは何でしょうか？

丹野さん：やはり一番は技能の土台となる基礎的なことです。自分自身、学園で学んだことは全部ですが、特に基本的な学科や実習のところは現場に出て本当に役立ちました。あとはトヨタで働く一社員としてのマインド、社会人としての礼儀や所作もしっかりと身につけてほしいですし、自分から考え動ける「考動」できる人になってもらいたいです。

■ 指導員としてやりがいや喜びを感じる時や、「地域のためになっている」と感じるのはどのような時ですか？

丹野さん：トヨタ東日本学園は、定員20名と少数なので、指導員と学園生が密につながり、信頼関係を築ける場だと思います。地域のボランティア活動へ参加する機会も多く、学園生だけでなく指導員にとっても有意義な時間になっていますし、そのような指導以外の場も含めて学園生一人一人とちゃんと接することができるようにやりがいを感じます。卒業時に「ここで



勉強できてよかった」という言葉を聞いたり、地元企業さまから受け入れた生徒達から「本当にありがとうございました」と言われる

と、やってよかったな、という気持ちになります。また、「豊東会」の会長もやらせてもらっていますが、各拠点・工場にいる卒業生とつながったり、イベントを通じて卒業生と会う機会もあるので、自分自身の励みになっています。

多くの地元企業さまから受講者を募り、勉強しに来ていただいて、会社間の情報交換も行い、現場に持ち帰っていただく、というところで東北が盛り上がっていければ、と考えています。



「町いちばん」の想い

地域振興の取り組みに携わっているTMEJの従業員に、お話を聞きました。

CN推進



▣ CN推進室へ異動しようと思った理由について教えてください。

伊藤さん：CN推進室室長の社外講演で、日本の自動車生産におけるCO2の排出量が今後も増えると、いずれ海外への輸出もできなくなるかも、という話があり、とても印象に残ったのがきっかけです。カーボンニュートラルへのチャレンジが、環境対応だけでなく、日本の自動車産業の競争力や、未来そのものに関わる重要なテーマということを知りました。

当時CN推進室の社内公募があり、それまでの業務とは全く違う分野で決して自信があったわけではないですが、チャレンジしたいという想いで応募しました。

▣ 地域防災という観点で、金ケ崎レジリエンスグリッドの必要性、存在意義をどのように捉えていますか？

伊藤さん：震災時、自分は高校生でしたが、電気がすぐに来ず携帯電話の充電も切れてしまい、報道などの情報も手に入らなくて困ったという経験をしました。金ケ崎グリッドは、いざという時に、避難所になる中学校などに送電ができるので、そこに行けば電気が使える状態になっており、金ケ崎に住んでいる地域の方々にとっては安心なのかなと思います。



▣ CN推進という観点で、地域の課題と、TMEJの使命・果たすべき役割は何でしょうか？

伊藤さん：CN推進室で働いていると、エネルギーというのは地域と密接な関係があり、自動車産業はもちろんですが、地域の暮らしを支えている、というのを毎日実感します。東北は本当に自然豊かで、再エネのポテンシャルが非常に高い地域であるにもかかわらず、地産地消があまり進んでいないところが課題だと思っています。

また、同じ自動車産業の仲間である仕入先さまの中には「カーボンニュートラルはわかるけれども、自分たちで何から始めれば良いかわからない」、と悩まれているところも多いです。TMEJは東北復興を使命としているので、地域の皆さんと一緒に、チーム東北でクルマづくりを通じて東北の未来をつくっていきたいと考えています。



カーボンニュートラルに関する広報活動もしていますが、社内外の人たちに自分事として考えてもらうために、地道に根気強く、伝わる言葉で発信することを心掛けています。

トヨタ自動車株式会社

〒471-8571

愛知県豊田市トヨタ町1番地

<https://global.toyota/jp/>

TOYOTA